

トマト

1 作型

月	1			2			3			4			5			6		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	ハウス半促成栽培																	
	ハウス抑制栽培																	
	露地栽培(雨よけ)																	

月	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	ハウス半促成栽培																	
	ハウス抑制栽培																	
	露地栽培(雨よけ)																	

:播種 :定植 :収穫

アピールポイント

- ・出荷時期: 4月中旬 ~ 12月中旬
- ・露地栽培では、標高の高い夏季冷涼な気候を活かした高品質なトマトが生産されています。
- ・大玉トマトのほか、ミニトマト、中玉トマトもともに完熟系の品種を利用しているため、高糖度で食味のよいトマトを栽培しています。
- ・ハウス栽培では、ほとんどの生産者が、マルハナバチによる交配を行っているため、極力農薬の使用は控えています。

2 各作型のポイント

(1) 露地栽培(雨よけ)

裂果防止など、品質向上のため、パイプハウスや簡易雨よけ施設を利用した雨よけ栽培とします。

ほ場は梅雨期や秋雨期でも滞水や湛水せず、また、盛夏の乾燥期に灌水できる場所を選びます。

梅雨入り前に敷わらを行い、泥水のはね上がり防止や盛夏期の地温上昇を防ぐようにします。

(2) ハウス半促成栽培

穂木は糖度の高い完熟系品種を用い、台木は低温伸張性の高い、土壤病害抵抗性品種を用います。

定植7～10日前から順化をはじめると、気温の低い時期なので、苗の管理には細心の注意を払い、スムーズな活着を促します。

気温が上昇し、夜間でも加温機が作動しなくなる頃は、ハウス内の湿度が上昇し、空気も停滞するので、灰色かび病、疫病などの発生に注意します。

(3) ハウス抑制栽培

穂木は糖度の高い完熟系品種を用い、台木は土壤病害抵抗性品種を用います。

栽培前半は、気温が高い時期なので、巣箱の位置、遮光などマルハナバチの取り扱いには特に注意します。

(4) 各作型共通

生育初期の過繁茂を防ぐため、元肥のちっ素(N)施用量は極力少なくし、使用する肥料は緩効性肥料を主体とします。

定植は、苗の第1段花房の第1果の開花を目安に植え付けます(苗全体を見渡して、約3割が開花した時点が目安)。極端に生育の悪い苗や徒長、老化した苗、あるいは若苗、病苗は用いないようにします。

1回目の追肥は第1花房の果実が500円玉大になった時に行います。その後は、草勢をみながら7～10日間隔を目安に行い、肥切れさせないようにします。

摘果は、1果房当たり3～4果に行い、果形の悪いもの等から除去します。

